

滝高フロンティアサイエンス通信

海外研修特集号 [平成27年8月17日～24日] 第15号

マレーシアレポート 5日目(8月21日)

SSH マレーシア研修5日目。この日は、サバ大学でマレーシアの高校生によるマレーシアについてのプレゼンを受けてから、昨日からの続きでグループごとにポスター作成を行いました。午後は大学教授を各グループにお招きして、内容についてのディスカッションとアドバイスを受けました。その後ポスターを完成させ翌日の発表に向けての練習を行いました。



マレーシアの高校生のプレゼンの内容は、マレーシアの地震と洪水についてでした。ボルネオ島ではフレートの影響による地震があまり起きないので、最近では移住先として人気がありますが、6月にボルネオ島北部にあるキナバル山で地震が起こりました。その地震は小規模ですんだものの約100人近くの登山者に影響があり、数人が死亡しました。さらに、この地震によってロバの耳と呼ばれる大きな岩が崩れました。

洪水が起こると、都市部・農村部に多大な被害を与えます。都市部では主に浸水による交通被害、排水溝に詰まったゴミによって水の処理困難などの被害があります。農村部でも被害は似た感じですが、デメリットばかりではなくメリットも少しはあります。洪水によって農村部の土壌が流され、新たな二次遷移の土壌ができます。そのため、新たな土壌による農業が行えるので、少なからずメリットにはなっています。

マレーシアの高校生のプレゼンを聞いた後、ホームステイ先の高校生とペアになり昨日のポスター作りの続きをしました。昼までポスター作りを大学の図書室でおこないました。

午後からは各グループに大学教授が来てアドバイスを受けました。話を聞いた後、大学教授も交えてテーマについてのディスカッションを行いました。その後、マレーシア高校生たちと一緒に各グループのポスターを手直し・完成させて翌日の発表に向けて練習しました。



最後に、1つの班が急遽発表することになりました。この班はボルネオ島の伝統民族文化・近代化をテーマに発表しました。この班は滝高生2名とマレーシア高校生2名なのですが、マレーシア高校生のうち1人が翌日の発表に参加できないため、また滝高生2名が熱を出したために発表はマレーシアの高校生2名で行いました。

5日目は一日中大学内での活動だったのですが、ボルネオ島の地震・洪水について知ることができたり、各グループの研究テーマについて、大学教授からお話を聞き、さらにもっと詳しく知ることができました。この日はいつもより体験することは少なかったのですが、ポスター作りを通してマレーシアの高校生とたくさんコミュニケーションをとってさらに交流が深まり、お互いの距離をさらに縮めることができたと思います。